



新年おめでとうございます。

旧年中は組合員の皆様に支部運営、組合活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

昨年4月には改善基準告示が改正され、労働条件の改善に対する期待が高まる中ではありましたが、小滝橋支部では期中退職者や病欠者が増加し、人員不足の為に十分な休暇が取得できない状況の中でも、皆様にはご協力いただき心より感謝申し上げます。

昨年の秋闘では、人事委員会勧告にて、都職員の月例給を平均10,595円、一時金を0.20月分の引上げ、配偶者に係る扶養手当の廃止、と言う不当な勧告から始まりました。

特に扶養手当廃止については、働きたくても様々な事情で働けない人々を一方的に切り捨て、国全体で少子化対策と言いながら、逆行した内容であり到底許容できるものではありません。



小滝橋支部の維持・存続・発展のため 心をひとつに団結を

支部長 金野義彦

小滝橋支部、東交の力を結集し、組合員の皆様に参加して頂いた都労連総決起集会の結果、全級・全号給の引上げ改定を実現しました。

初任給、若年層の賃上げは一定の評価はできるものの、中高齢層が取り残され、都労連が求めていた平均30,000円以上の賃上げには程遠い内容であり、非常に不満の残る結果となりました。物価上昇に見合う賃上げが実現できなかったため、今年は更なる賃上げを目指し、都労連に結集して共に闘っていきましょう。

本年4月からの路線適正化の提案を受けております。提案理由として、乗務員の確保や労働環境改善が大きな課題であることとなっています。提案理由が労働環境改善を目的としている以上、提案には一切妥協せず、ダイヤ改正や所要の見直しと共に、より働きやすいダイヤ作成を目指し、ダイヤ部が中心となり、支部一丸となって話し合いを行ってまいります。気付いた点等がありましたら各組ダイヤ部員にご意見をお伝え頂ければと思います。

本年7月には東京都議会議員選挙と参議院議員選挙が予定されています。

特に東京都議会議員選挙は私達の労働条件や労働環境に直接的な影響を与える可能性があります。そのため、私たちの職場を守り、より良いものにするためには、私たちの声を代弁する候補者の全員当選を目指し、私たちの意見や要求を反映させるために、必ず投票に行きましょう。

本年も引き続き皆様と共に、より良い支部運営、組合活動を目指し努力してまいりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。最後に2025年も皆様のご多幸、ご健勝を祈念し年頭の挨拶とさせていただきます。

陸上自衛隊日記

2001年発行の「陸上自衛隊日記」を読んでみると大変面白く、昨年流行語大賞の「ふてほど」が彷彿される内容に是非、「おたき」で再発行を実現したく御本人の承諾を頂き全2回に分けて掲載することになりました。第1回は「プロフィール」「方言について」の2話になります。

プロフィール

何故、自衛隊に入ったか、という話をします。

高校が終わり、自分は叔父が経営していた材木屋に就職をしました。

当時、親父は叔父のところで、番頭をしていました。しかし、自分は、全く使い物に成らずピッタリ1年間で辞めると、親父に打ち明けました。すると、親父は、目の玉を三角にして怒りだし、「勘当だ」と成りました。

自分は19の春に、親、家、親戚の3点セットを失う事に成りました。

そこで、考え付いた物が自衛隊でした。三食が付いて、パンツ以外の衣服に困らない。やる気があれば、「のらくろ」の漫画のような人生が送れる。19の春、材木屋の2トントラックで、狭山市役所の市民相談所に相談に出掛けました。ニッカポッカ、寅一のズボンのままで。すると、偉い人しか入れない様な応接間に入れられました。待つ事、10分で自衛隊がやって来て、言葉巧みに、トラックごと、航空自衛隊、入間基地に連れ込まれました。自分は、材木の配達帰りのため「今日は急いでいます、明日にしてください」と、「今から、起こる全ての問題は、任せて下さい」なんて格好の良い事を言われてしまい。身体検査、名前だけ書けば良い学力のテスト、あっという間に入隊しました。

昭和58年4月1日午前8時。航空自衛隊、入間基地の一等空尉が迎えに来ました。浦和の埼玉県庁から、マイクロバスに乗り換え、静岡県御殿場市中畑2002の2陸上自衛隊、富士教導団、普通科教導連隊に入隊しました。それから、4年間、何処にも移動する事がなく、三食ゲンコツ付き。毎日が涙と笑いの連続、女遊び、酒飲み、サラ金、ギャンブル、葬式、結婚式、全てのイロハを叩きこまれました。

昭和62年3月31日、午前9時。大粒の涙をこぼしながら、御殿場を出て来ました。

当時、自分の班長は、「おめーは、娑婆にでたら、苦労するんだけどなー」「酒飲みだけは、娑婆の人間には負けるな」なんて言っていました。人生、何が起きるか、分かりません。「喜劇と悲劇は紙一重」です。



方言について

日本全国、地方によって多くの方言があります。北は北海道、南は沖縄まで、これが日本語か？と思うような方言に驚いた事があります。日本の国は広いと実感いたしました。新隊員で入隊し集団行動が始まりますと、必ずどの部隊でも血だるまになるような大喧嘩が発生いたします。人間関係の最初の一步は会話です。自分の同期に、静岡、浜松生まれと、茨城、水戸の生まれの同期がおりました。2人とも完璧、鉄板で方言が直らず、また治そうという気持ちはひとつもありませんでした。この2人がすったもんだの大喧嘩を起こしました。その理由が、口の利き方が気にいらねえ」と一歩も譲りませんでした。しかし、両方の言い分を聞くと、口の利き方でなく「浜松弁が気にいらねえ」と「茨城弁がゆるせねえ」でした。どちらも、完全に日本語のアクセントが異常に違いました。特に浜松の同期が凄かった。

食堂でとんかつを食っている時に、「でら、うみゃーら」と言われたには驚きました。

自分は、「そりゃフランス語かい」と聞きなおしたぐらいです。自分は福島の生まれなので、茨城の方言は理解できたのですが、茨城の同期は強烈な茨城弁でした。そこで、ついたあだ名は「茨城」です。

教育が終わる頃には、自然に誤解もとけて二人とも仲良く、かみ合わない日本語を器用に使い分けて酒を飲んで、「同期の桜」を歌っておりました。

日本の国は広いです。方言と言う物は素晴らしいです。4年間の思い出の中には、日本各地の方言がたくさんあります。終わります。



フ ォ ト コ ー ナ ー



電車部荒川支部青年女性部がかねてより希望していた自動車部への職場見学が12月4日に小滝橋営業所で実現することになり総勢12名の方が参加しました。



12月11日にサンクスエアボールにて東交西北部地区協議会青年女性部ボウリング大会が開催されました。

選挙だヨ!全員投票

お
た
き

第687号
毎月発行
教宣部
機関紙委員会
発行責任者
菅野 敏



QR
閲覧用

2025年は、「選挙イヤ〜」ですよ〜
今年は、都議選・参院選が重なるんです!



へーそうなんだあ
でも選挙に行くの
めんどくさいし
興味が無いんだよ
な〜



私たちの労働条件の大元は、
法律で定められてるでしょ!
だから、国政の場で物事を
変えていかないと!

そんなの無理だよ!
投票しても変わる
気がしないよ

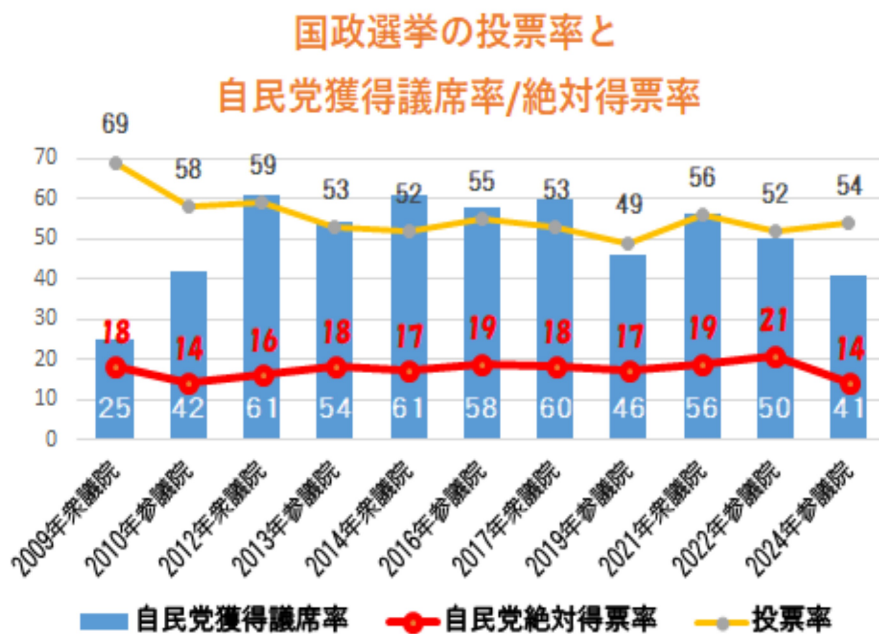


確かに今のままじゃダメよね。
だから私達の意見を聞いてく
れる仲間を増やして政権交代
をする必要があるの!

どうせ自民党に投票
する人が多いし政権交
代なんて無理じゃない



ちょっとこのデータ
を見て!
自民党に投票してる人
はいつも20%に満た
ないの。だから投票率
の高かった2009年
は政権交代があったで
しょ!

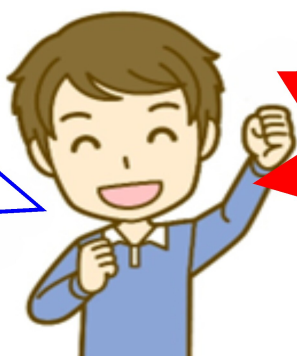


そうか! 投票率
が低いと固定票
が有利に働くこ
とか!

そう!
投票率が上がれば
政治を変えるこ
とができるってこと!



友達にも
家族にも
職場の仲間にも
声を掛けて



必ず投票に
いくぞー!



都議会議員
選挙は私たち
に直接影響す
る大切な選挙
です!

陸上自衛隊日記

第2回は、「芸は身を助ける」「無理は禁物」の2話になります。どうぞ最後までお楽しみください。

芸は身を助ける

芸は身を助けると言いますが、これは本当の話です。

皆さん、銭形平次の主題歌を知っていると思います。この歌を歌わせたら本家本物と間違えるくらい上手い同期がいました。その同期は面白おかしく、前奏から「ボン、ポボン、ボン、ボン、ポボン、ボン、ボン」と始まりソックリそのままに歌い上げるのです。これには、いつも厳しい教官も大変に喜び、同期が声を囁らしダミ声になるまで、また飽きるまで銭形平次を歌わせました。その同期が居たおかげで山の中で何度も助けられました。意地の悪い教官、助教のご機嫌を取るには笑いの取れる芸が一番の特効薬なのです。しかし幸福はそう長くは持ちませんでした。3泊4日の飲まず食わず眠らずの想定中、意地の悪さでは右に出る者が居ないと言うような助教が「銭形平次はもう飽きた、水戸黄門をやれ」と始めました。「笑いが取れたら水筒の水を1本くれてやろう」この一言で、同期11人は、何しろ笑いを取ろう、これ以上水を飲まなかったら死んでしまう。

必死の覚悟で臨んだ水戸黄門でしたが、見事に笑いが取れず、二昼夜飲まず、食わず、眠らず、極限状態の目の前で意地の悪い助教は水筒の水を勢いよく捨てました。「笑いの取れないお前が悪いんだ」と捨て台詞を吐きながら。

これには、自分たちは参りました。11人皆が声を出さずポロリと涙を流しました。悔しさ、惨めさで胸がいっぱいになり、またキレて暴れようにも暴れる力は、誰一人残っていませんでした。その涙を皆で目を合わせながら、ペロリと舐めました。自分の隣にいた同期は「あの助教、死んで恨んでやる」と目の玉を三角にして言いました。

今、思い出しても頭に血が昇る出来事です。結局、助教は笑いの取れる芸なんてどうでも良かったのです。水筒の水をいかに悲しく、悔しく捨てることしか頭になかったのです。出来レースと判っている、もしかしたら水が飲めるかもしれないと思い水戸黄門を歌ったのですが、まさか水の泡になりました。

そこで話は最初に戻ります。「芸は身を助けます」これは絶対。

皆さん、芸を磨きましょう。何でもいいんです、歌に限らず、酒飲みでも、スポーツでも、パチンコでも、この人にやらせたら、かなわないと言うような。



無理は禁物

どんな職業でも、病気は付き物です。運転台に座りっぱなしのドライバーは腰痛になったり、パソコンと戦う仕事の人が、目が疲れたり肩がこったりするのは、避けて通れない病気なのかも知れません。

私の4年間の兵役で苦労した病気は水虫でした。何しろ朝から晩まで、ひどい時には、3日間も靴の紐を解かない時がざらにありました。桜のマークの入った「刑務所製造」の安全靴の名前は、半長靴と言いまして、とても蒸れる性格の靴でした。夏は暑く、冬は凍えるように冷たくなる、オールシーズンまるで逆さな、とても丈夫な靴でありました。兵隊3年目、夏の頃です。いつもの様に訓練が終わり、幼稚園のプールぐらいある風呂に入り終わった時、どうも右足の機嫌が悪い事に気づきました。いつもの痒さと全然ちがうなと思ったのですが、風呂上がりに偶然会った同期と晩飯も食わずに隊内クラブへ足を引きずりながら、呑ちゃん騒ぎをしていました。隊内クラブとは、鉄柵の中で1軒だけある桜マーク防衛共済会直営の飲み屋であります。店がカンバンになり、勘定を済ませると、右足は動かず、さほど飲んで無いのに、身体中が熱くなっていました。

こりゃ、いつもと違う、なんて気が付いた同期に背負われて、衛生室まで来た所で、自分の記憶はプツンと切れていました。気が付いたら隣の部隊にある陸上自衛隊富士地区病院のベッドの上でした。

目を覚ましたのは、次の日の朝で、看護婦さんに体温を測って貰っていました。看護婦は非常に困ったような顔つきで「大丈夫」なんて云っていました。驚いた事に体温計のメーターが振り切る手前まで熱がありました。どうやら、右足の水虫の傷から強烈な細菌が入り込み、右足の付け根のリンパ腺は睾丸のように、腫れ上がり戦闘不能な状態でした。自衛隊が誇る最新鋭の抗生剤の点滴で何度も血液検査を受けながら5泊6日の公傷。不名誉な入院でした。

小隊長は怒るに怒れないような顔つきで「水虫を舐めてかかるな」なんて言いました。

自分は返す言葉が見当たらず、点滴の中間地点を見つめていました。退院してからが大変です。連隊中の同期、先輩から「水虫、大丈夫か」なんて、暫く言われていました。ここで、話の詰めに入ります。「無理は禁物です」幾ら、お仕事が休めない状態でも本当に身体が悪い時は無理をしないで下さい。取り返しのつかない事態に成った時を想像して下さい。「世の中、水虫で入院する馬鹿もいるのです」



座右の銘
ドブに落ちても根のある奴は
いつかは、鉢菓の花と咲く

昭和38年5月26日生
平成3年10月入局

著者 小森 実



第27期レンジャー養成教育

S59.7.8~9.4